

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

令和2年 4月 13日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 京都大学教育学研究科

職 名・学 年 博士課程3年

氏 名 不破 早央里

助成の種類	令和元年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	国際箱庭療法学会第25回大会		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	日本における箱庭療法の臨床事例のメタ分析 : 箱庭作品評定の尺度作成に関する探索的研究から		
開催場所	ドイツ・ベルリン・Harnackhaus Berlin Dahlem		
渡航期間	令和元年 9月 4日 ~ 令和元年 9月 10日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	300,000円	
	使用した助成金額	300,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	航空券代	150,910円
		宿泊代	146,371円
学会参加費		64,839円	
(上記に助成金を充当)			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) このたびは助成をいただき誠にありがとうございました。申請し、採択されて手続き終了後にすみやかに振り込んでいただき本当に助かりました。今回いただいた助成によって得た経験を生かして今後も努力してまいりたいと思います。本当にありがとうございました。		

成果の概要

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程 3 年

不破早央里

【学会の概要】

今回参加させていただいた学会は、International Society for Sandplay Therapy（国際箱庭療法学会）の開催する ISST CONGRESS 2019, 25th Congress of the International Society for Sandplay Therapy（国際箱庭療法学会第 25 回大会）です。ユング心理学の心理療法である箱庭療法の実践者や研究者が世界中から集まり、臨床事例の発表や研究発表を行っています。箱庭療法に関するものが発表の中心となりますが、それ以外にもユング心理学に関する幅広い内容について発表が行われています。本学会は、2 年に 1 度開催され、第 25 回大会は 9 月 5 日～9 日までドイツ・ベルリンにて開催されました。今回も 30 か国以上から 200 人以上の実践者や研究者が集い、発表や交流を行いました。9 つの主となる発表の他に 40 以上もの発表が行われました。発表と発表の間には交流の時間が設けられており、地域の枠を超えた活発な交流や意見交換がなされました。

【発表の概要と成果】

今回の発表ではこれまで理論的に効果があるとされ、世界中でかなり多く実施されてきた箱庭療法が実際にどのようなプロセスをたどって治癒に至るのか、呈している精神症状によってそのプロセスに差異があるのかといった点を明らかにするために、神経症圏の小学生に対して行われた刊行されている事例の箱庭作品に対してメタ分析を行うことを目的とし、先行研究を参考にしながら新たに独自の指標を作成しました。その後、作成された指標に基づいて症状別の箱庭作品の差異などを分析し、発表しました。その結果、症状によって制作された箱庭作品に違いが見られ、緘黙や不登校といった神経症圏小学生が抱える心理学的テーマが箱庭作品に十分に反映されている可能性が示唆されました。この結果について国際箱庭療法学会で口頭にて 15 分程度発表いたしました。発表後、他の研究者から質問やご意見をいただき、今回作成した指標で作品の特徴をとらえきれていない点があるのではないかとといった指摘や手続きに関する意見を頂戴し、今後の研究への課題点が明確になり、アイデアを得ることができました。今回いただいたご意見を基にさらに研究を進めていきたいと思えます。また、国際箱庭療法学会でいただいたコメントを現在執筆中の論文に反映させることでさらに精緻化された論文になるものと思えます。これらの作業も努力していきたいと思えます。

また、今回の学会に参加して、学会の中で開催された発表やシンポジウムにも積極的に参加しました。現在主要な精神症状となってきた PTSD（心的外傷後ストレス障害）と箱庭療法の成果など近年流行している主要なテーマに関する発表などを聞きました。普段

目にすることの少ない海外の事例を多数聞くことができ、研究者である前に心理臨床の実践者として、感服することが多々ありました。もちろん研究者として得られた知識もかなり多く、今回発表した研究に関わることで、そしてそれ以外の知識も幅広く得ることができました。ここで得た知見を日本での実践にも生かしていきたいと考えています。また、ただ知識を得ただけに留まらず、日本で見聞きする事例との比較によって共通点を見出し、箱庭療法のプロセスというものについて考えさせられたり、また逆に、差異が見られて、日本の心理療法の独自性や傾向についても考えたりすることができました。研究者としてプロセス研究や効果研究の実証的研究を行っていくにあたって幅広い心理療法への視点を持つことが重要であると日々感じています。今回国際学会に参加することで得られた知識や感覚はそれらに寄与するものであったと帰国してからの日々を過ごす中でも強く感じています。また、様々な国から訪れた研究者・実践者との出会いもありました。学会の中でディスカッションを重ね、自らの研究・実践について考えると同時に日本の研究・実践のあり方についても考えることができました。帰国後も学会で出来た繋がりは続いており、大変貴重な機会であったと切に感じています。

今回、国際学会に参加するのは初めてで、戸惑うことも多かったです。それ以上に得られたものの大きさを痛感しています。今回国際箱庭療法学会に参加して得られたものを今後の研究や臨床実践に生かしていきたいと考えております。今回助成をいただいたことで国際学会での発表に踏み切ることができました。誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。貴財団のますますのご発展をお祈り申し上げます。